

第59回日本寮歌祭

廣島 昭三 軍校7・陸士61

恒例の第59回日本寮歌祭が、8月4日開催されました。会場は日比谷公会堂から京王プラザホテルとなつていましたが、今回は日暮里所在のホテル・ラングウッドに変更されました。下町での開催は初めての事であり、ホテルも新しくなり関心が持たれました。予想とは異なり、鄙稀の立派なホテルの起用で幹事の御苦労が偲ばれました。

戦後旧制高校に在学し、寮歌を放歌・高吟した学生であつた方は僅少になつて仕舞いました。会場一杯に設営されたテーブルは総て満席。どうやらご家族の参加が一因。加えて早稲田・慶応・学習院・拓大等私大の参加が要因となつていようです。兎に角、旧制高校生のみでは成り立たなくなつていのは当然です。

プログラムに従つて、先ず会長の丁重なる御挨拶。終われば愈々学校所在地が北の方から順次出演となります。各学校共寮歌を歌う前に口上を述べるのが通例となつております。想を練り美辞麗句を連ねて母校を讃えるものが殆どです。嘗ての俊秀であれば、口上

の言辞を見事に謳い上げています。

日比谷公会堂時代の陸士の参加者は、数10人で軍歌を唄いながら壇上で分列行進、プログラムの中では異色であり、会場を圧倒したことを思い起こしています。

然るに、今回の本官参加は僅かに2名(原田・田中両君)とは情けない。一方、対抗意識を強く持つている海兵はというと、何と10名を越す参加者で演出はなかなかスマートでした。昔、牛蒡剣と短剣とで差を付けられた事も想起されました。

陸VS海は因縁の対決ではありますが、やはり負けたくない。来年の第60回大会には同志を糾合して頑張らなければならぬと思います。

茲で思い出話を一つ。同期の千葉金助君は立派な体格の持ち主で、一橋では陸上競技部に所属、投擲の選手でした。彼は寮歌祭の主で、陸士↓山口高商↓東京商大と3校に出演してました。2校出演は結構多いけれども、3校は1人だけだと誇らしげでした。その千葉君も既に鬼籍に入つて仕舞われました。(合掌)

寮歌は素晴らしいものです。末永く謳い継がれんことを切に希望・念願致します。